

アンビージャーナル

# ENVIE Journal

03-06

## 路地裏特集

神戸ロバアタ商會  
コラン  
La Luna  
Record Bar Braque

01-02

## 創刊パーティー報告

夏号のキーワード

07 MUSIQUE FRANÇAISE オレルサン

08 日本で出会えるフランス!

09 世界で活躍する日本人

*Dans ENVIE il y a vie*  
希望の中に人生がある

10 日仏映画

17-22

## FRENCHBLOOM.NET

11-12

## JAPAN LOVE ♥ LIVE TOUR 2018

14-16

## ENVIE プロジェクト

13 FRANCE NEWS

STUDIO Kiichi

Maxim

神戸洋靴店

ENVIEジャーナル 編集長  
小関ミオ



# MUSIQUE FRANÇAISE



このコーナーでは、おすすめフランス音楽や来日フランス人アーティスト情報をお届けします。今回ご紹介するのはオレルサン!



## Orelsan (オレルサン)

フランス人ラッパー・ソングライター・俳優・映画監督。

2009年にファーストアルバムをリリース後、ヒップホップデュオCasseurs Flowtersとして2枚のアルバムをリリース。フランス国内で絶大な人気を誇るアーティスト。

2017年の10月にリリースされた3rdアルバム「La Fête Est Finie」(祭りは終わった)は発売から3ヶ月でプラチナアルバムに4度も認定され、2018年2月9日開催されたフランスのグラミー賞と呼ばれるVictoires de la musiqueで「年間ベスト男性アーティスト」「オーディオビジュアル作品賞(ミュージックビデオ)」「ベストアルバム賞」など主要な音楽賞を3つ受賞。

フランス、ベルギー、スイスで20のソールドアウト公演(チケット17万枚)を行い、今年の夏はヨーロッパ各地で主要なフェスティバルへの出演が決まっている。

ファッションブランド「Avenir」主宰。

アニメ「ワンパンマン」のサイタマ役や日仏共同制作「MUTAFUKAZ」のフランス語吹替版では声優も務めている。

今まで何度かブログやTwitterなどでオレルサンについて触れてきたのですが、遂に遂に来日してくれました。

2013年に初めてフランスに住んだ時に、テレビから流れてきた「Bloqué(ブロケ)」(Casseurs Flowters名義)を聞き、映像を見た時には、本当に時が止まったように体がBloquéされました。

90年代HIPHOPへのリスペクトをビシビシ感じ、ピースティーポーズを彷彿とさせるサウンドとFlow、そして

余裕たっぷりにリリックと映像で遊んでる姿はとても眩しかった。

そこからフレンチヒップホップの大ファンになり新旧譜問わず沢山聴いてきましたが、一番フランス語が分かりやすくて共感できたのがオレルサンの作品でした。フランス人が実生活で使う話し言葉や、フランス恋愛事情や現代の思想の傾向などなど、彼のラップでよく勉強していました。何よりも聞き取りの練習にはラップは持ってこいでございます。



今年のVictoires de la musique (フランスのグラミー賞)では3部門で受賞したオレルサンですが、その内の一つが「年間ベスト男性アーティスト」。(この賞の女性アーティストはシャルロット・ゲンズブールが受賞。)

HIPHOPのアーティストがベストアーティストに選ばれるって、今の日本のミュージックシーンではあまり想像出来ないかもしれません。

HIPHOPもポップスもエレクトロも、最近のフランス音楽を聴いていると文学的・詩的歌詞のおかげで、全くジャンルの垣根を感じないのが心地いい。

どんな歌でも「韻を踏む」ので、言語そのものがリズムとなり、楽器となる。自分達の話す言葉を最大限に音楽に活かしているんですね。

本当にフランス語って面白くて美しい。もっともっとフランス語勉強せにやなあ。と、話がそれましたが、

今フランスではHIPHOPを誰もが聞くようになっていて、そのようにシーンを牽引してきたのが、今回ご紹介させて頂いているオレルサンなのであります。是非YouTubeなどで映像もCHECKして下さい!めっちゃくちゃかっこいいです!!



ライブは東京で数日に渡って開催されました。大人も子供も大盛り上がり!!



日本のアニメ、ゲーム、漫画で育ってきたというオレルサン。「俺はBon Geek(いいオタク)だ」と言っていました(笑)YouTubeには日本語対訳のあるミュージックビデオもあります。彼の日本語愛をすごく感じます。



もっと日本でライブやりたいと語ってくれました。今度は神戸や関西にも来てねー!!



日本で出会う  
フランス!

日本在住のフランス人の方や、フランスでの経験を生かして日本でお仕事されてる方、フランスを伝えている方、フランスに日本を伝えている方。あなたの街にもリトル・フランスが沢山あります!今回は実際に小関がランチに行き感動したお店をご紹介します。

ENVIEジャーナルでは今後あなたの街の「自慢のフランス」の話題を大募集しています!  
enviejournal@gmail.com  
までご連絡ください。

フランスワインと料理のお店  
■ Le Chat Botté / ルシャボテ (兵庫県 姫路市)

ある日私が「〇〇日に姫路でライブがあります!」とインスタグラムで呟くと、「姫路に行くならルシャボテに行ってみて!素敵なフランスの方がやってるレストランだよ〜」とコメント頂きまして、早速行って参りました。店内にはエネルギー溢れる色使いが素敵な絵画が飾られていて、お料理のお皿にも同じ作者の絵が描かれてる!そんな発見も楽しい時間でした。

前菜の一つのキャロットラペも、こんな美味しいラペ食べたことないってぐらいラペだけで1杯飲める。私はメインを「サーモンのタルタル」にしたのですが、細かくこしらえられたサーモンの1片1片にも感動。

様々な食感と彩りのお野菜が散りばめられている中に、フルーツのキウイを見つけた時は、拍手をしたくなりました。フランス料理といえば「肉」「チーズ」のイメージですが、こんなにも繊細に手間暇かけてお野菜にこだわるフレンチは初めてでした。見渡すと、なるほど女性のお客様が多い!

姫路からフランスを発信するこちらのお店では、姫路で採れた食材とフランスの食卓のマリアージュがこだわり!まさに日仏架け橋のお店です。日本人のれいこさん、フランス人のディミトリさんの国際夫婦漫才(笑)も微笑ましい♡

ADDRESS 兵庫県姫路市白銀町71  
TEL 079-280-3107



ガレット(そば粉)&クレープ専門店  
■ 3épice / トロワエпис (兵庫県 神戸市)

本誌のレイアウトや私のホームページのデザインを担当して下さってるPinkBijouゆみきさんとランチ打ち合わせ。たまには思いっきり女同士でキャクキャしたいなあ、と、インスタグラムで「#神戸ランチ」で検索。がっつり系、洋食系も美味しそうだけど、ちょっとお腹に重たそうだなあと思っていたら飛び込んで来たガレットのお写真。

なんと、オープンしたばかりのお店らしい!普段男性スタッフ達と男飯ばかり食べていたので、迷わずここ!と決めました。

店内はとても広々。プランコがあったり、ギャラリースペースがあったり、ドライフラワーや観葉植物がそこかしこに飾られています。

オープンキッチンの作りも可愛い。まるでフランス郊外のオシャレなお家遊びに来たみたい!ピアノやプロジェクターもあったので、私はすぐにライブイベントしてみたい!って発想になるけど(笑)、大人数での色んなパーティー、ウェディングの二次会、撮影、色々出来そう。ガレット、クレープの種類も様々で、私はサラダガレットと、デザートには蜂蜜とバターのシンプルなクレープを選びました。

生地も美味しい♡バターはエシレ♡大満足のランチでした。次回はシールドと一緒に頂きたいです!

ADDRESS 兵庫県神戸市中央区京町67番地KANJUビル3F  
TEL 078-335-7010



フレンチビストロ  
■ La Pêche / ラ・ペッシュ (愛知県 名古屋市)

全国ツアー2日目にライブをさせて頂いた名古屋のLa Pêcheは、予約がなかなか取れないフレンチの名店!ライブ当日の6月21日(夏至)は、フランスでは「音楽の祭日」と呼ばれる、街中が音楽で溢れるお祭りの日。美味しいお料理とワイン、スタッフさんとお客様の笑顔が溢れ、通りに面したオープンテラスからは道行く人達も立ち止まって楽しんだり、まるでそこはフランスの「音楽の祭日」そのものでした!

ライブ後には私達もご飯を頂きました。焼いた山羊のチーズのサラダは、絶妙なハチミツの風味がエンドレスな食欲をそそります。シャルキュトリー盛り合わせにはテリーヌやレバームースも添えられ、鴨のコンフィは骨まで美味しかった!!フランス文化、フランス料理への愛情と情熱溢れるオーナーさん、スタッフさんに出逢えて感激でした。

オーナーシェフは島岡一樹さん。名古屋の兄貴でございます。是非島岡さんを訪ねてください。最高に美味しく楽しいフランスに逢いに出逢えます!

ADDRESS 愛知県名古屋市中区大須4-13-46 ウィストリア1F  
TEL 052-262-8689



VOL.2  
世界で活躍する日本人

日本で生まれた前衛芸術「舞踏」。  
夏木マリさん主宰のパフォーマンス集団「マリナツキテロワール」「印象派NEO」の舞台には、コンテンポラリーダンサー、和太鼓奏者、そして私のようなミュージシャン、そして今回ご紹介させて頂く舞踏家の川本さんなど、様々な分野のプレイヤー達が集結しています。印象派の舞台でも強烈な存在感を放つ、日本を代表する舞踏家の川本裕子さんにインタビューをしました。



- 2000年 「東雲舞踏」設立。
- 2012-17年 “Asia Butoh Tree project” 西安、寧、重慶、蘭州、西安、成都、廈門、マカオ、香港、広州、北京、クアラルンプール、パリ、バンコク、ペナン
- 2016年 『Kantor\_Tropy: COLLAGE』ポーランド12都市ツアー  
『Quit House』バンコク舞踏フェスティバル
- 2016-18年 『ささらもさら』東京、ノバスル、ジェノラグラ、グダニスク、パリ、ルーゴ
- 2018年 『Tokyo Butoh Circus 2018』企画・出演 等

川本さんは、舞踏の創始者である土方巽氏を中心に形成された前衛舞踏の様式「暗黒舞踏」を学ばれていました。「闇」「死」を表現する暗黒舞踏の世界ですが、川本さんは独自の解釈で、「東雲舞踏」を創設。現在の「生」を謳歌していたらそれは自ずと「死」に繋がっていくのではないかと。今を精一杯生きることが自分の闇にも繋がりが、夜が明け朝へと時が刻まれていくように、機に乗じて変化しながら、ひと時も止まらず歩んで行くことを信念に、国内外問わず活動しています。

川本さんの初の海外公演は2000年ソウル。そこからインドネシア、アメリカ、イギリスなど世界各国で公演を行い、フランス パリでは2005年にベルタンボワレで公演を行っています。その時のことを「独特の雰囲気だった」と語っていました。1978年、パリの劇場で初の舞踏公演が行われて以来、フランスで一大舞踏ブームが起こります。特に「山海塾」(坊主頭、白塗りの男性グループ)は、パリ市立劇場と共同プロデュースを行っており、パリを拠点に世界的な活躍をしています。さすが、前衛芸術に寛容なフランス!なのですが、川本さんは、日本とフランスでの舞踏に対する解釈や表現の違いに違和感を覚えたそうです。もうフランス公演は行わなくていいかもしれない。とその時思ったそうですが、2018年、川本さんは10年ぶりにフランスの舞台に立ちます。世界中から出演オファーが殺到している川本さんのカンパニー「東雲舞踏」は、今年2月から2ヶ月かけてポーランド3都市・パリ・スペインを巡るヨーロッパツアーを敢行。各地で公演とワークショップを開催しました。10年ぶりのフランス公演では、2016年に初演した「ささらもさら」を上演し、各舞台評でも絶賛の嵐!フランスに衝撃を与えました。



(舞台評引用)J.M. Gourreau Sasara Mosara / Yuko Kawamoto, Espace Culturel Bertin Poirée, Paris, les 15 et 16 mars 2018.

原爆に限らないが、絶えず歴史的に存在し続けることをやめない悲劇のように。彼女が表現する「悲しみ」「恐れ」「怒り」が混在する感情は、無分別な状況である世界的象徴に等しいのだと彼女はダンスを通して我々に知らしめず。彼女が発揮する抗しがたい魅力と驚くべき存在感のおかげで、かつてボードレールが綴った「すべては秩序と美、豪華、静寂、そして喜びでしかない。」という光の世界の中に、我々は侵入を許されぬ。確かに確立された彼女のスタイルは、伝統的所作とコンテンポラリーダンスを融合させ、時に極端にグロテスクであり、彼女の暗示に富む力や強さと覚悟によって魅了される。

一昔前、舞踏がフランスに受け入れられたのは日本人が持つエキゾチックさ、肉体、神秘的要素を含む東洋への憧れがあったと分析出来ます。今回川本さんは、彼女の目指す舞踏が「型」の追求ではなく、挑戦し続ける「前衛芸術」であり、それを提示出来たことへの確かな手ごたえを感じたそうです。フランスで育まれてきた舞踏との違いを観客にも感じてもらうことが出来た、意義のある公演となったと語って頂きました。10年前に覚えた違和感を払拭することができたことは未来の舞踏を切り開く確実な一歩となったと確信します。次なる川本さんの公演に期待が高まるばかりです。現在ヨーロッパにおける「舞踏」は、各国が自分達の捉え方でそれぞれの国のものとなり成長し続けていますが、アジアはこれからだ

と川本さんは言います。アジア諸国は国自体が豊かになってきているところもありますが、それぞれの家庭や個人においては経済成長に追い付いていくことができず、やりたいことがなかなか出来ないのが実態。アジア人が持つ身体性や「アジアの舞踏とは？」を追求するため、川本さんが長年取り組まれている、アジアの舞踏集団を養成し作品を作る[Asia Butoh Tree Project]は現在マレーシアでキャンプ中。(本インタビューは、マレーシアにいらっしやる川本さんとオンラインでさせて頂きました。)気が遠くなる程の緻密さと驚く程のスピードで進化し続ける川本さん。今後の活動から目を離せません! 日本での公演も是非チェックして下さい!



[東雲舞踏]

<https://www.facebook.com/Butoh.Shinonome/>

[Asia Butoh Tree Project]

<https://www.facebook.com/AsiaButohTreeProjectTeamAsia/>





## 河瀬直美監督 「Vision」

配給/LDH PICTURES  
© 2018 "Vision" LDH JAPAN,  
SLOT MACHINE, KUMIE INC.

出演  
ジュリエット・ビノシュ、永瀬正敏  
岩田剛典、美波、森山未來、田中泯、夏木マリ

### ココに注目

今回この映画の中で私が注目したのは美波さんという日仏ハーフの女優さん。現在東京とパリを歩き来しながら活動されています。ものすごく等身大でものすごくピュアな方で、すっかりファンになりました。彼女はまた、役者さんとして日仏の架け橋になりたいとおっしゃられていました。いつかお会いしたいです！今年の9～11月には舞台「華氏451度」(レイ・ブラッドベリ原作、長塚圭史上演台本、白井晃演出作品)に出演され、11月は兵庫県立芸術文化センターでも公演があります。皆様要チェックです！

大学で専攻していたフランス文学の授業で初めて「ポン・ヌフの恋人」を見た時の衝撃は忘れません。ジュリエット・ビノシュの儂く、妖艶で狂気的な演技。

自分の持ちうる全てで不器用にも愛を紡いでいく恋人達を包むパリの街並み。その全ての美しかったこと。

その頃からフランス映画にハマり出し、ジュリエット・ビノシュが出演する作品もほぼ全て観てきたのですが、彼女を日本の映画で見られる日が来るなんて！

河瀬直美監督の「Vision」。皆さんもうご覧になりましたか？

2017年のカンヌ映画祭で河瀬直美監督とジュリエット・ビノシュは出会い、その縁(えにし)が河瀬監督の今回の映画への着想と制作意欲を掻き立てたといえます。

人知の及ばぬ霊的な奈良の森の中で繰り広げられる物語。色々なものが軽薄化している現代社会が取り戻すべき光を、私達に流れる血液や細胞ごと感じられる作品です。日本の魂をフランスの方にも沢山見て頂けたらいいな！

### もう一つのVision

映画「Vision」について掘り下げてく内に、興味深い記事に出会いました。18歳の時、初めて8ミリカメラを手にしてから30年。今や世界中で高い評価を受ける河瀬直美監督は、今作「Vision」でも故郷の奈良にこだわり、作品を撮り続けていらっしゃいます。

2年に1度地元で「なら国際映画祭」を開催されていましたが、前回は奈良市の補助金が止まりとても大変だったそう。今年の9月には第5回目の開催を控えています。市議会の反対で補助が出るかどうかは未定。「金額の根拠が不明瞭」

「その効果は？」  
芸術への公の金の支出に対する難しい問題。最近では世の中的にも映画を観に行ったり、ライブを観に行ったりする方も少なくなってきたのではないのでしょうか。

生活もどんどん大変になってくる現実ではありますが、芸術や文化にかける時間やお金。私はそれは無駄じゃないと思っています。現にそれが



La ministre Françoise Nyssen est venue dans l'Hérault présenter le Pass culture © Radio France - Salah Hamdaoui

自分自身を形成しうるものとなり、空気として纏うようになり、人との出会いや会話にも繋がり、新しい世界が広がると思うのです。例えばとても着こなしがオシャレな方がいらっしゃったとして、ただただ見かけだけがオシャレなだけではないはず。きっとそこには映画や音楽、本などの文化的背景やルーツが見えるからその人の存在が輝いて見えるのだと思います。  
公がお金を出す出さない問題もありますが、私達自身が芸術への欲求を無くさないこともまた日本の未来、いえ私達個人の日々を彩る豊かさにつながるのではないのでしょうか。皆さんはどう思いますか？

### ココに注目

素晴らしい俳優陣が出演している本作ですが、やはりこの方に注目しないわけにはいきません。プレイヤー夏木マリさん。マリさんは本作で「アキ」という森に住む全盲の老女の役をされています。スクリーンの中には普段のハツラツとした美しいマリさんの姿は1mmもなく、全くの別人、奈良 吉野の森に先年住む「アキ」が存在していました。

最近ではネットで「劣化」という言葉を目にするがありますが、時と共に顔や体型に現れるその人が重ねた時間を「劣化」と呼ぶことへの違和感と遺憾を覚えます。表現において大事なものは、経験と時間。技術の鍛錬や人としての熟成のそれがあってこそ「今」を表現出来るのだと思います。マリさんの「アキ」そのものの存在感はこの映画において計り知れないものがありました。

### 日仏比較 和訳:小関

"Le droit culturel est un droit humain essentiel."  
「文化的特権は基本的人民の特権である」

"La culture pour tous, partout" insiste Françoise Nyssen qui plaide pour la fin de "la ségrégation culturelle dans notre pays".

「私たちの国の文化的な差別」を終わらせるために論陣を張る  
フランソワーズ・ニッセンは「万人のための、いたることにある文化」を主張します。  
(※つまりお金のない人が文化を享受できないということにならないように。)

一方、フランスではバレエやコンテポラリーダンス、映画においても国がその芸術分野を支援することで文化が育ってきた歴史があります。2019年からは18歳の若者が文化関係の出費に自由に使える500ユーロ(約6万6千円相当)の「Le Pass culture(カルチャーパス)」なるものが一部の県で試験的に支給予定なのだそう。本を買ってもいい。ヒップホップ

ダンスを習ってもいいし、ギターレッスンに使ってもいい。舞台を見たり映画を見たっていい。年間400万ユーロ(約5億1860万円相当)の予算が若者達のため、文化的将来のために投入されるとのこと。日本でもこんな政策が実施される日が来ることを強く希望しつつ、沢山の芸術作品に触れられるよう、日々自分のアンテナを張り巡らせていきたいです。

# FRANCE NEWS

パリ在住アーティストMIKI KATO

彼女と出会ったのは2014年。私がパリに住んでいた時でした。

知性溢れるユーモアに富んだ素敵で彼女、私が尊敬する大好きな友人の一人でもあります。是非皆さんに彼女の作品に出会って欲しい！定期的に個展を開催するなど精力的に活動している彼女から嬉しいニュースが届きました！



こちらが日本ラベル！



20カ国をモチーフにしたハイネケンのフランス限定デザインが発売！  
\*Édition limitée のパック (6,8,12,15,20,24本入り)で販売  
20各国それぞれの国のアーティスト達がデザインを手がけており、MIKI KATO が日本ラベルのデザインを担当しています。

(写真左から7人目が、日本人アーティストのMIKI KATO)  
10月頃までの限定商品なのでフランスに行かれる方は是非お手に取ってみてください！



## アーティスト MIKI KATO

パリ拠点のアーティスト。独学でアートを学びヨーロッパを中心に活動中。中国、イギリス、スイス、フランスetc海外在住歴20年以上、4カ国語を操るマルチアーティスト。絵画のみならず、イラストをベースに、パッケージデザイン、ファッションテキスタイル、アクセサリー等も手がける。  
個人でヨーロッパを中心に展覧会をする他、サントリー文化財団助成によるアート活動兼アクセサリー制作。ヨーロッパ最大級のコンテポラリーアート展(GMAC)参加。ジェーン・パーキンやピエール・バルーと共に日本人アーティストとしてパリ最大級のチャリティーコンサート『Tsunami et demain』で作品展示をしたり、分野にとらわれる事なく物作り全般を愛するアーティスト。

MIKI KATOの作品は  
こちらからチェックできます。  
日本での個展も待ち遠しいです！  
<https://www.katomiki.com>



人生を通してアートを表現することをモットーとする彼女は、アート活動以外に、ロンドン国立大学にて日本語講師を務めたり、パリコレクション通訳/セールスをする一方、お菓子好きが高じて仏老舗店 Ladurée で働いたり、ユニクロのワールドキャンペーンモデルを務めるなど、多岐にわたり活躍しています。人々のリアルライフを表現するその姿勢はとも興味深い、文字通りすべてが芸の肥やしとなった彼女の作品は魅力的で個性に満ち溢れています！

